

2019年度第2四半期 決算説明資料

2019年8月6日

株式会社太陽工機
(証券コード:6164)

研削を究め、革新を起こす

1



経営戦略
について

2



当社のコア
コンピタンス

3



今後の
成長戦略

4



第2四半期
決算概要

Management Strategy

経営戦略について

お客様と共に成長する企業へ

代表取締役社長

渡辺 剛

代表取締役会長

渡辺 登



研削盤No.1メーカーへ

売上

200億円

営業利益率

20%

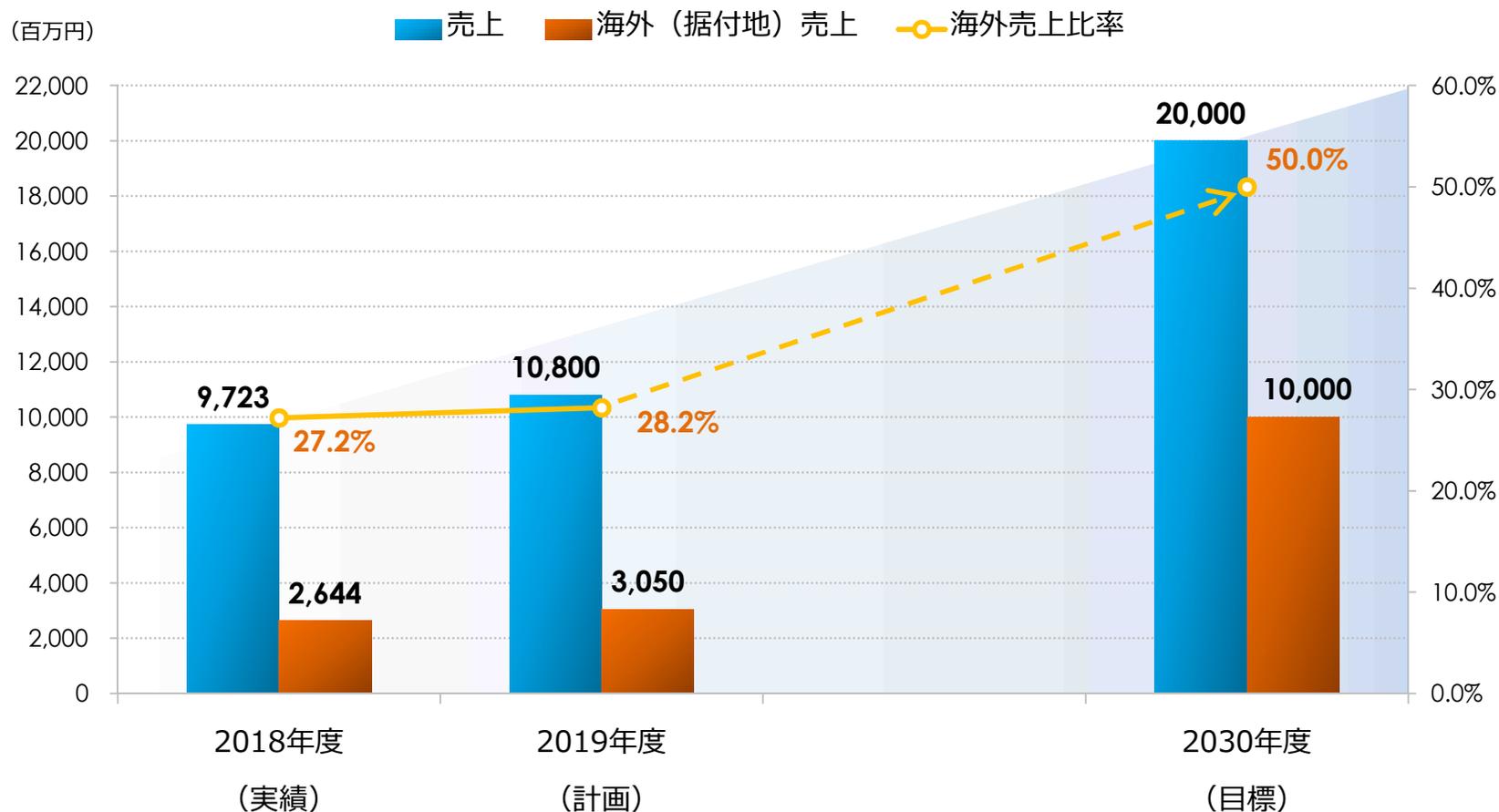
海外への製品供給率

50%

株主資本比率

80%

堅実な経営を推進し持続的成長可能な企業へ



Core Competence

当社の コアコンピタンス

太陽工機は工作機械のひとつ 「研削盤」 の專業メーカー

マザーマシンとして
あらゆるものづくりに不可欠

研削盤專業メーカーとして
培われた技術とノウハウ



砥石を円盤状にし、高速回転させて金属部品を磨き上げる

加工対象物

円盤状にした砥石

加工精度は
1マイクロメートル
(1000分の1ミリメートル)

高精度・高品質が
求められる
部品加工に不可欠

※ 「研削加工」と「切削加工」の違い

「研削加工」は工具に砥石を用いて加工対象物を磨く加工に対し、

「切削加工」は工具に刃物・バイト・ドリル・チップ等を用いて加工対象物を削る加工

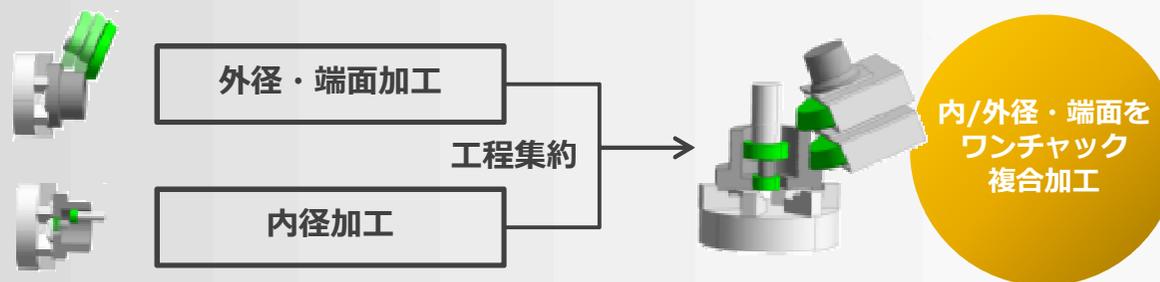
立形研削盤・複合加工

立形研削盤

- 重力に逆らわず部品を保持
- 部品の取付け・取外しが容易
- 省スペース

複合加工

プロセスイノベーション（多工程をワンチャック加工）
内/外径・端面の同時加工で**直角度・同軸度・真円度の高精度化！**



メリット

加工精度の向上

作業効率の向上
(工程集約)

JIS規格「工作機械の名称に関する用語規定」において 「立て形内面研削盤」というカテゴリーを確立 (2012年5月)

工作機械 - 名称に関する用語 (JIS B0105)

「立て形内面研削盤」

水平面内で回転するチャック上に工作物を取り付け、
といし主軸頭をコラム又はクロスレールに沿って送り、
主として穴の内面を仕上げる研削盤。

注記：工作物の端面及び円周外面も研削することができる。

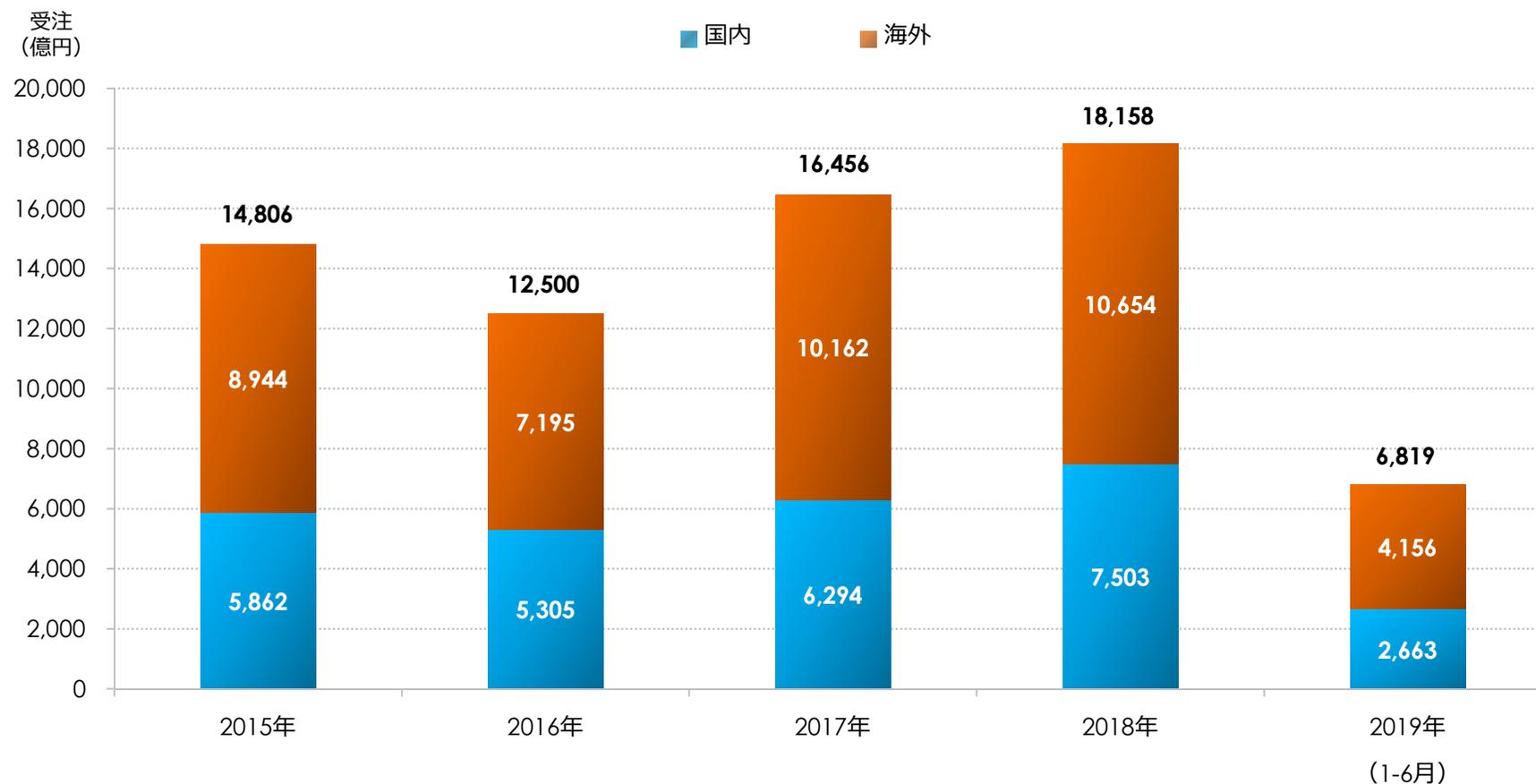
※写真はNVG-8T

お客様の幅広いニーズに対応した機能・コストを満たす製品ラインナップを構築



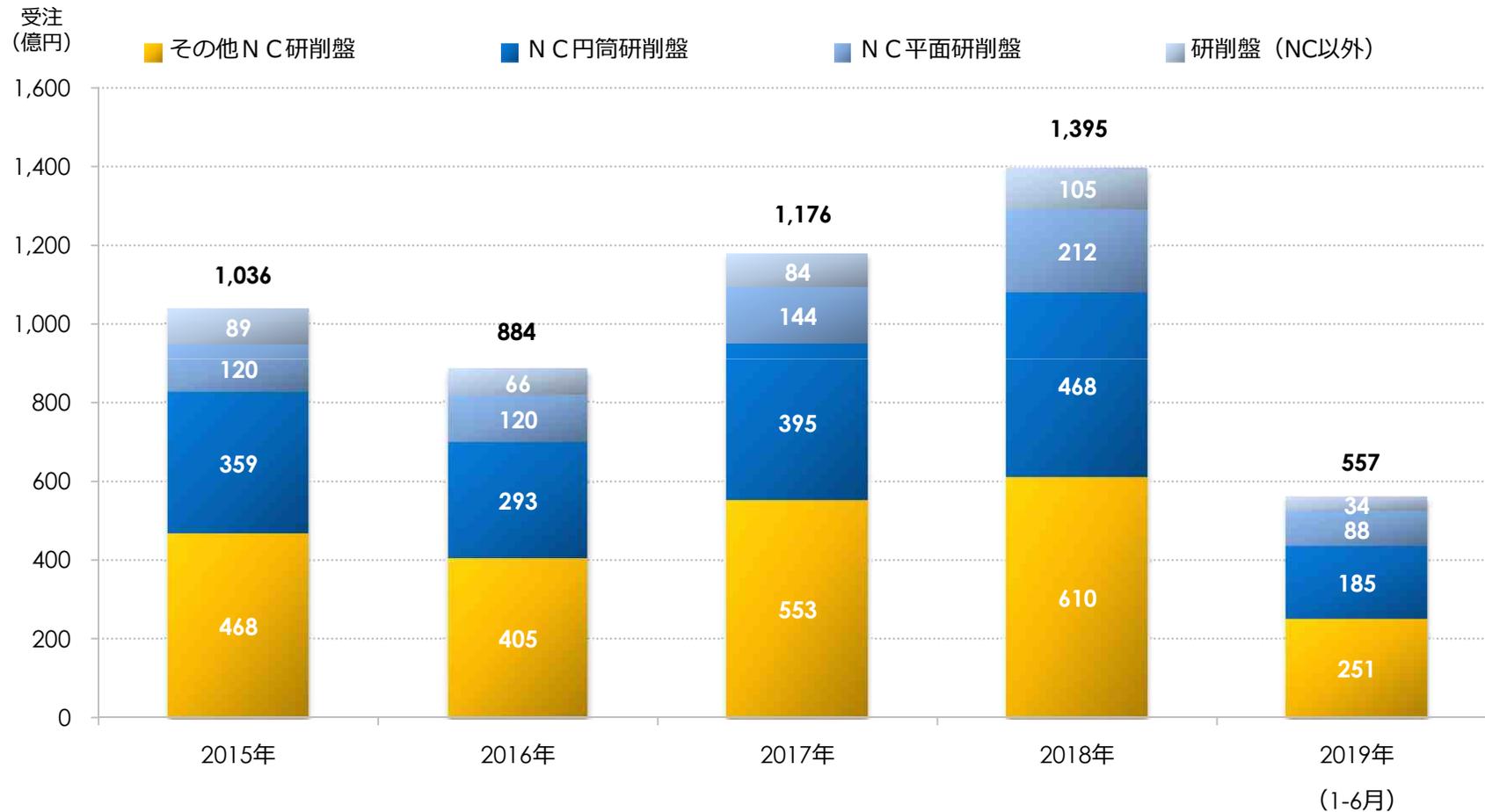
2018年工作機械市場全体の受注は1兆8,158億円

工作機械市場全体での国内：海外比率は約40：60



出典：（社）日本工作機械工業会 受注統計より

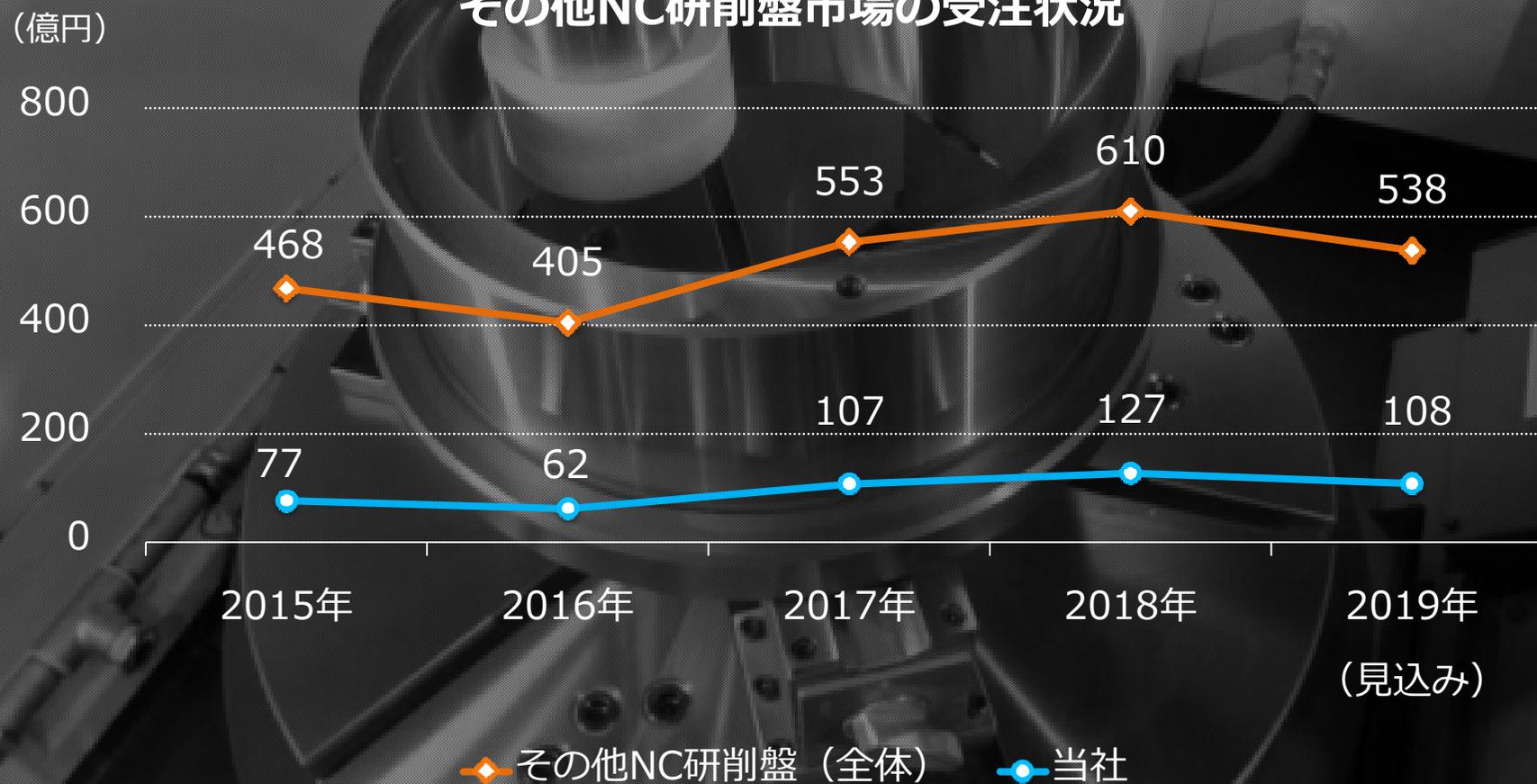
研削盤市場は年約1,400億円規模（工作機械全体の7.7%）



出典：（社）日本工作機械工業会 受注統計より

その他NC研削盤における当社のシェアは約20%に拡大（2018年度受注実績）
国内と同等以上の市場規模が想定される欧州・米州での販売体制を強化していく

その他NC研削盤市場の受注状況



Growth Strategy

今後の成長戦略

営業力の強化



生産能力の向上

海外展開強化

- 海外におけるブランド力、知名度のアップ
- 営業、サービス体制の強化
- S&P（サービス・パーツ）売上増加と保守部品の整備

生産能力の増強

- 新工場の建設
- 優秀な人材の採用
- 人材育成、スキルアップ

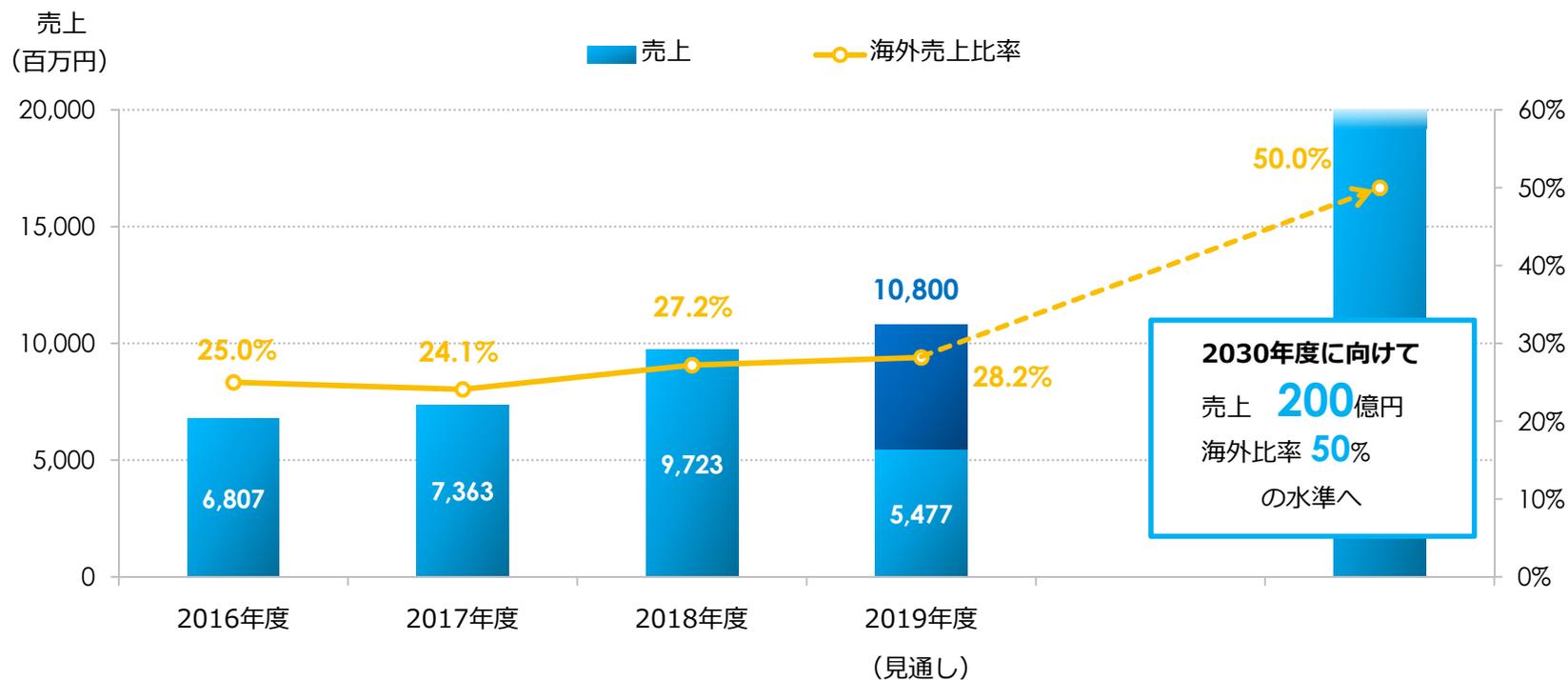
自動化・システム化対応・共通化による 製品開発とコスト低減

- 自動化オプションを拡大し販売単価アップ
- ユニット・部品共通化によるコスト低減

新規市場の開拓

- マーケティング強化による競合他社との差別化
- 新機種の開発

海外比率50%を目指す



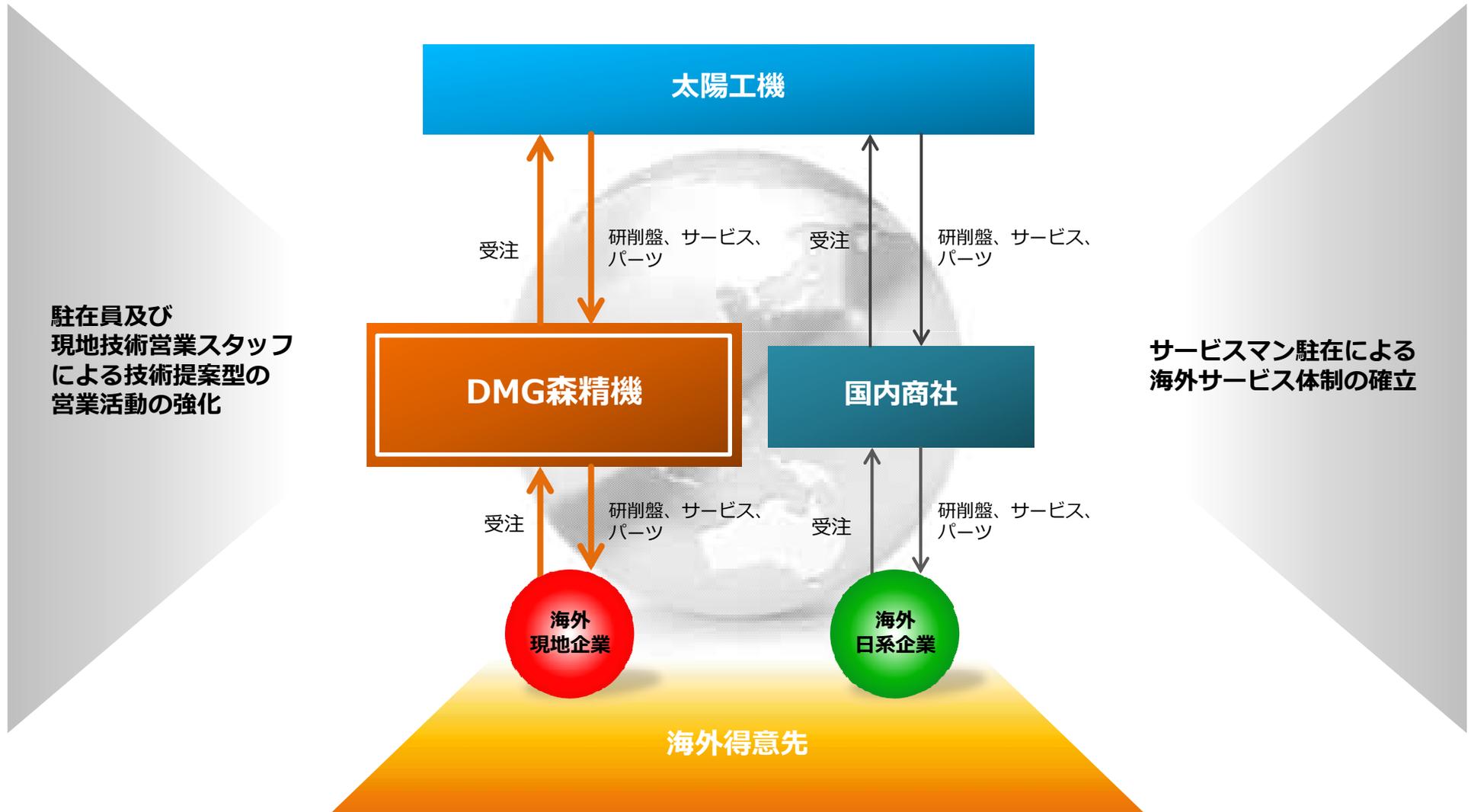
海外比率 向上に向けた 取組み

駐在員および現地技術営業
スタッフによる
技術提案型営業活動の強化

サービスマン駐在による
海外サービス体制の確立

現地展示会への積極出展
によるブランド認知の浸透

DMG森精機とのシナジーにより海外現地企業への拡販を推進





国内外の展示会に継続出展し認知度向上を図る

2019年度 展示会出展情報	開催期間
DMG森精機 フロンテン オープンハウス (ドイツ)	 1/22~1/26
(株)東陽 展示会 TOYO イノベーションフェア 2019 (刈谷)	 3/7~3/8
Grinding Technology Japan 2019 (千葉)	 3/18~3/20
CIMT2019 (中国)	 4/15~4/20
DMG森精機 シカゴ イノベーションデー (アメリカ)	 5/13~5/16
昭栄産業(株) STF昭栄テクニカルフェア (三条)	 5/17~5/18
DMG森精機(株) 伊賀 イノベーションデー (伊賀)	 7/9~7/13
(株)太陽工機 プライベートショー 2019 (長岡)	 7/18~7/19
EMO Hannover 2019 (ドイツ)	 9/16~9/21
メカトロテックジャパン 2019 (名古屋)	 10/23~10/26

ユーザ業種別戦略

成長産業を見極め受注獲得に向けた対応を準備

半導体とロボット業界は、受注の先食いや米中貿易摩擦の影響で2018年度後半以降一時的に受注が減少しているが、成長産業であることに変わりはない。景気回復時に受注を獲得できるよう継続的な営業活動に注力。

ユーザ規模別戦略

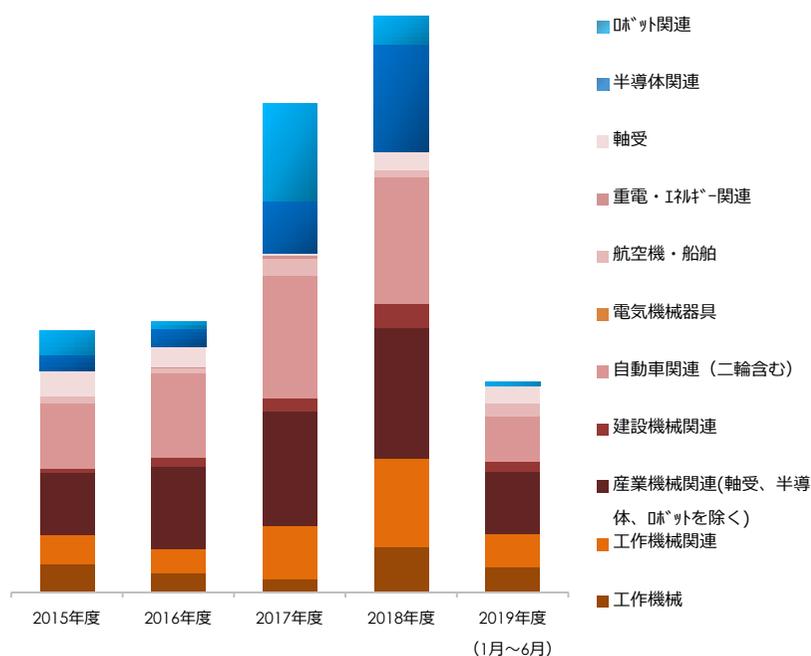
大企業向け

お客様のニーズに的確な対応を行い、生産効率アップを図れるよう自動化オプションなどの提案型営業に注力。既存機のリニューアルをタイムリーに実行して、常にライバル企業に先んじるようにしていく。

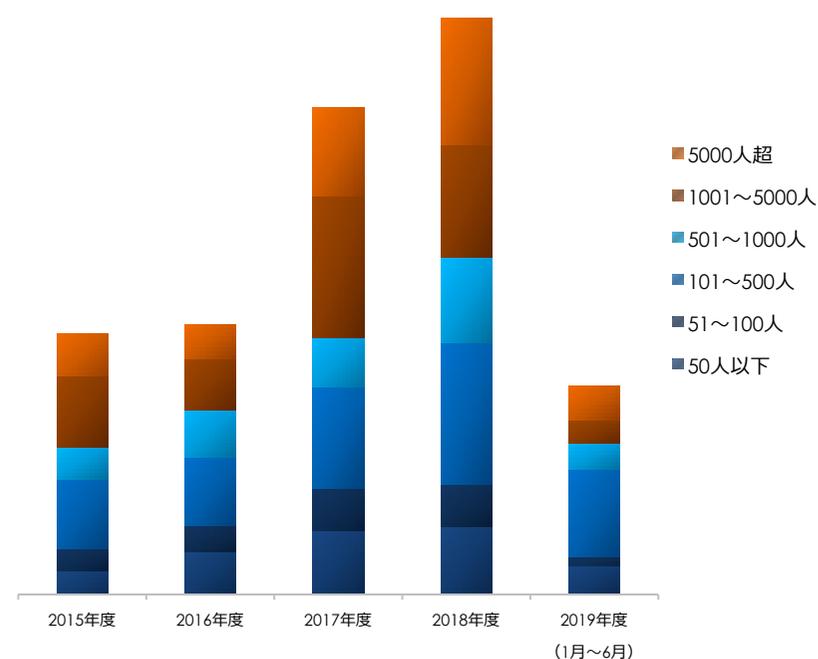
中小企業向け

コストパフォーマンスに優れた「Vertical Mate®」シリーズを積極的に訴求し新規開拓を図る。

ユーザ業種別 機械受注金額

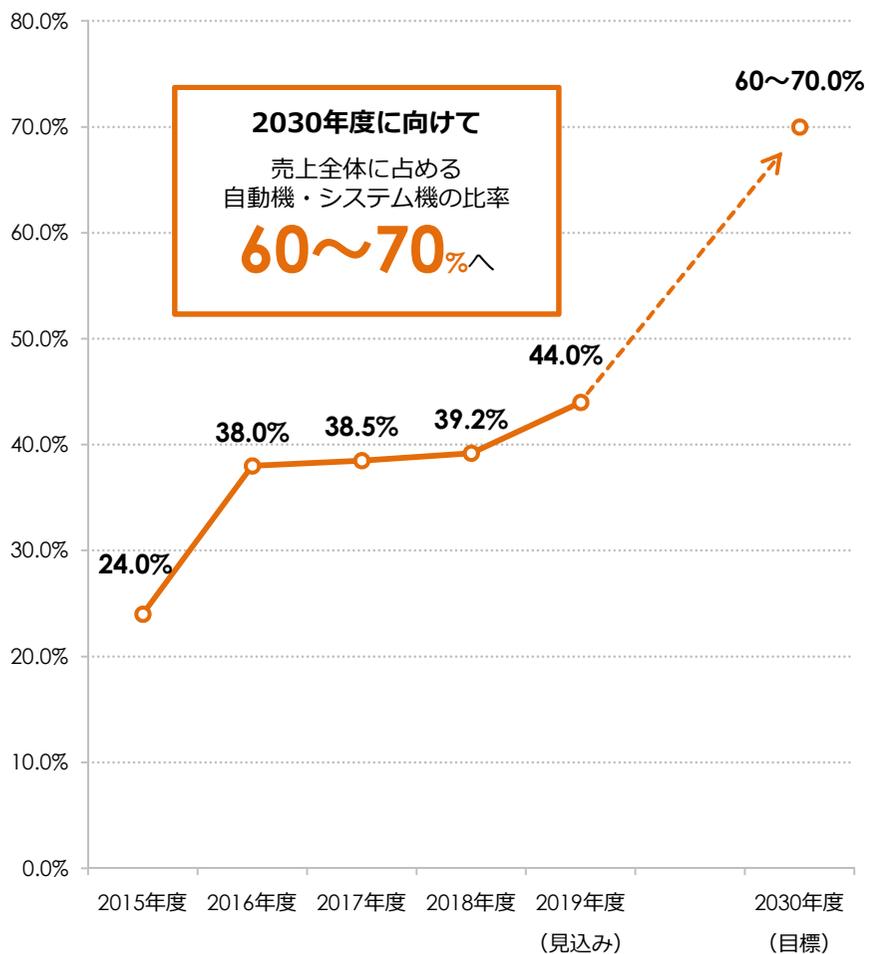


ユーザ規模別 機械受注金額



※2015年度は決算期変更により2015年4月から12月までの9ヶ月決算となっております。

自動機・システム機の割合



具体的な対応

- 自動パレット交換システムの標準オプション化
➡ CVGシリーズ
- NC円テーブルによる自動芯出システムの拡販
➡ NVGHシリーズ
- 極限まで省スペースを追求したスマート・ロボット・システムの提案
➡ USGシリーズ
- ロータ/ストック装置の機種横断的な仕様共通化
➡ 小型機・横型機
- 遠隔から機械診断が可能なリモートメンテナンスサービスの提案
➡ 全機種

増え続ける自動化・システム化の要望に積極的に対応しながら、標準オプション化を進めることで

販売単価**20%アップ**、コスト**5%低減**を目指す

超小型立形研削盤USG-2

+

スマートロボットシステム
(2ロボット/2ストッカ)

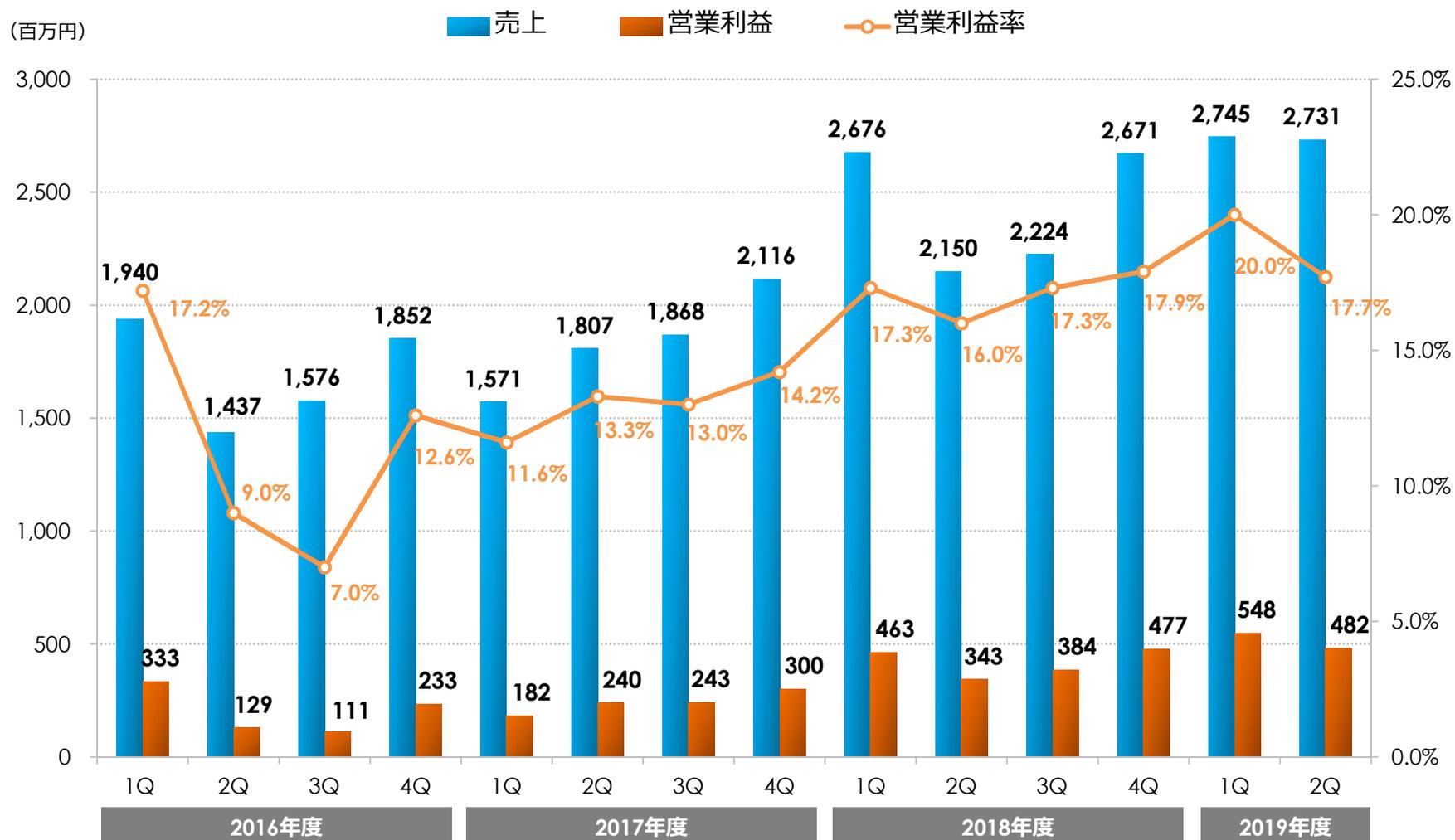


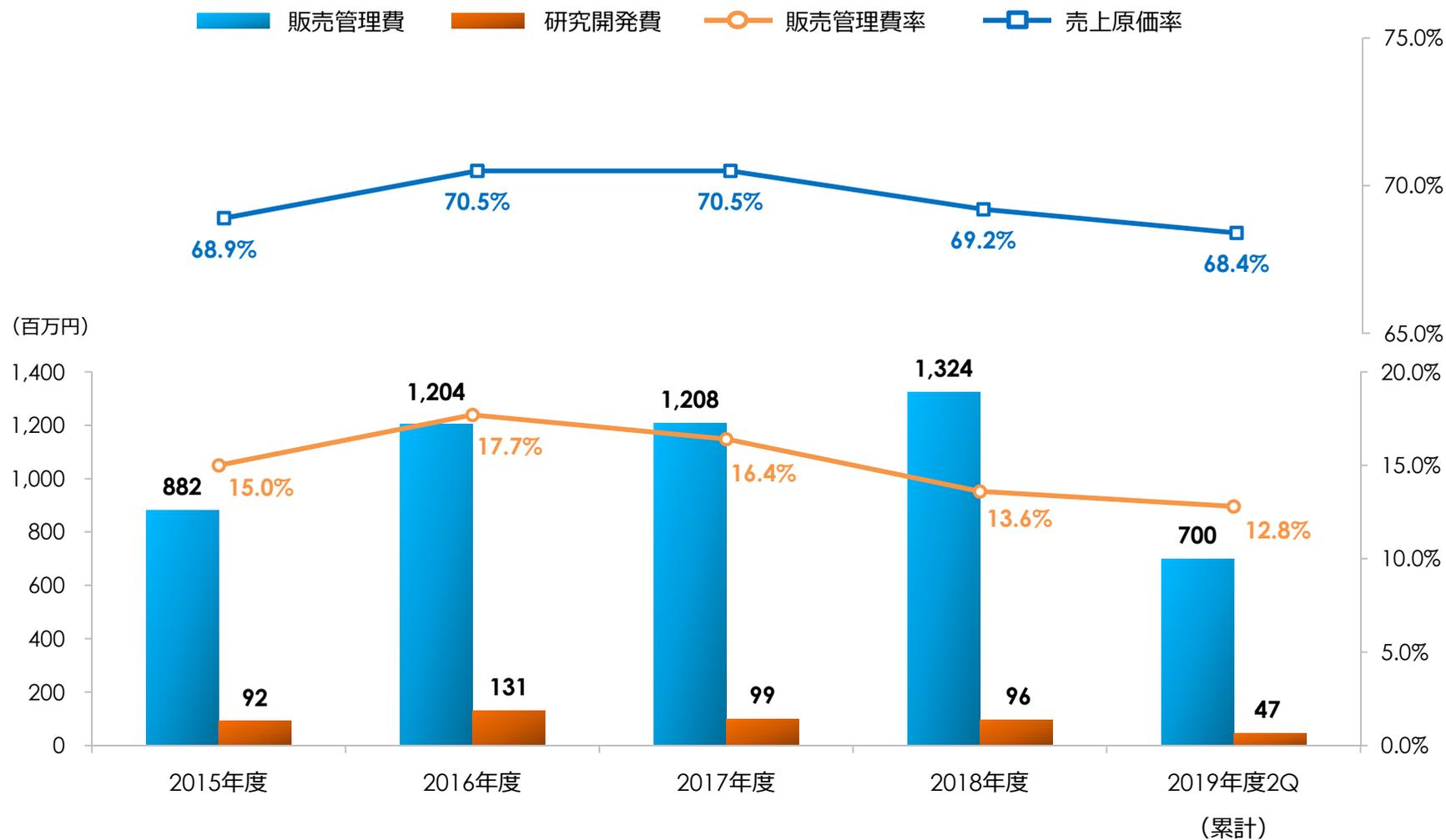
Financial Statement

第2四半期 決算概要

過去最高の売上と利益 (半期別)

(百万円)	2Q (1-6月)		前年同期比	通期 (1-12月)		前年比
	2018年度	2019年度		2018年度 (実績)	2019年度 (公表値)	
売上	4,826	5,477	+13.5%	9,723	10,800	+11.1%
営業利益	807	1,031	+27.7%	1,669	1,920	+15.0%
営業利益率	16.7%	18.8%	+2.1p	17.2%	17.8%	+0.6p
経常利益	804	1,032	+28.4%	1,660	1,910	+15.1%
当期純利益	540	700	+29.7%	1,157	1,310	+13.2%





※2015年度は決算期変更により2015年4月から12月までの9ヶ月決算となっております。

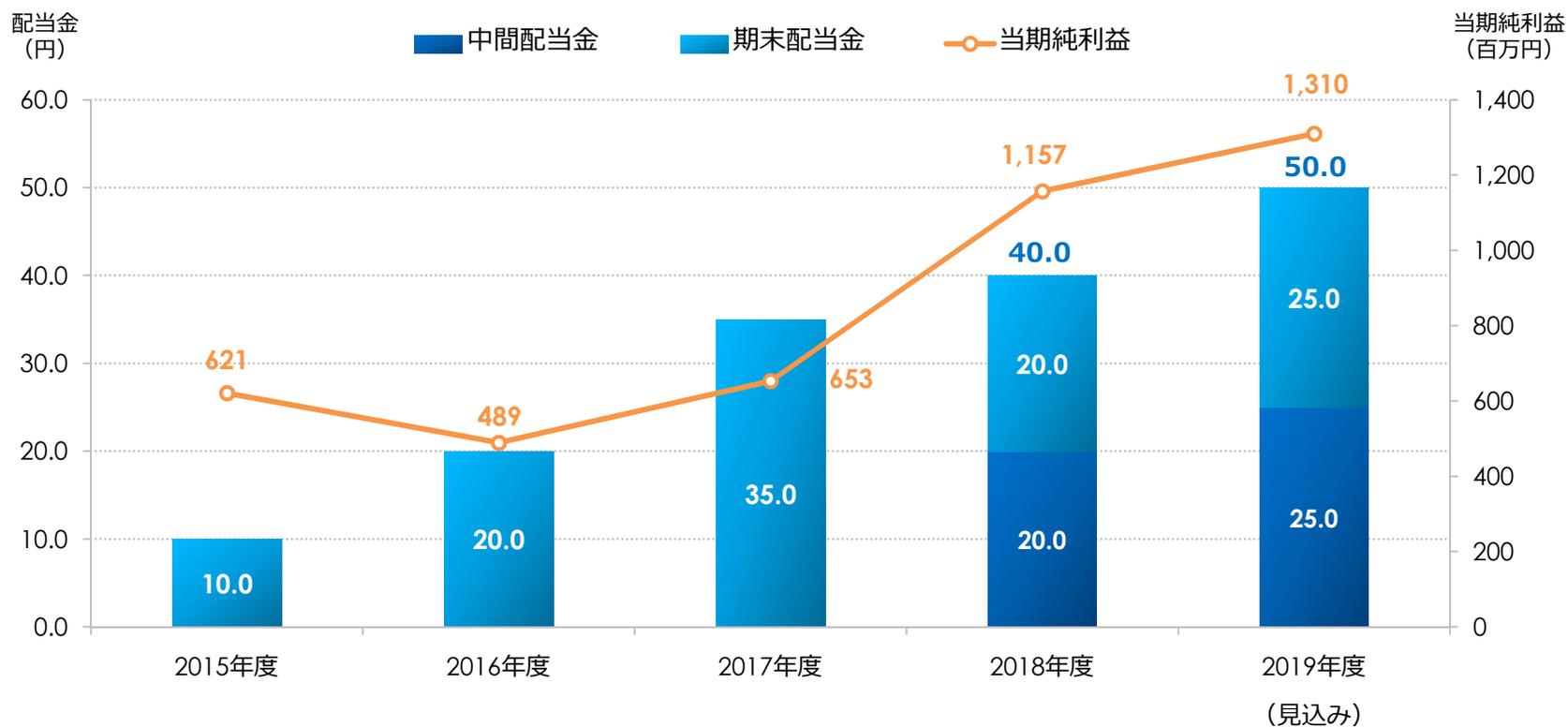
貸借対照表 (B/S)

TAIYO KOKI

(百万円)	2018年度	2019年度	
	12月31日	6月30日	増減
資産の部			
流動資産	6,007	6,539	532
現金及び預金	386	675	288
売掛金	2,228	1,835	△392
棚卸資産	2,633	2,968	335
関係会社短期貸付金	700	1,000	300
その他流動資産	58	60	1
固定資産	1,260	1,229	△30
建物	531	517	△13
土地	297	297	0
その他有形固定資産	177	155	△22
無形固定資産	46	49	2
繰延税金資産	96	100	3
投資その他資産	111	109	△1
資産合計	7,267	7,768	501

(百万円)	2018年度	2019年度	
	12月31日	6月30日	増減
負債純資産の部			
流動負債	1,939	1,447	△492
買掛金	460	539	78
リース債務	484	72	△412
未払法人税等	388	359	△29
製品保証引当金	89	78	△10
役員賞与引当金	0	0	0
その他流動負債	517	397	△119
固定負債	1	411	411
リース債務	1	378	378
長期未払金	0	32	32
純資産	5,327	5,909	582
株主資本	5,327	5,909	582
負債純資産合計	7,267	7,768	501

経営基盤の充実や今後の成長性、事業展開を総合的に判断しながら 安定的な配当と持続的な増配を目指す



配当性向

9.5%

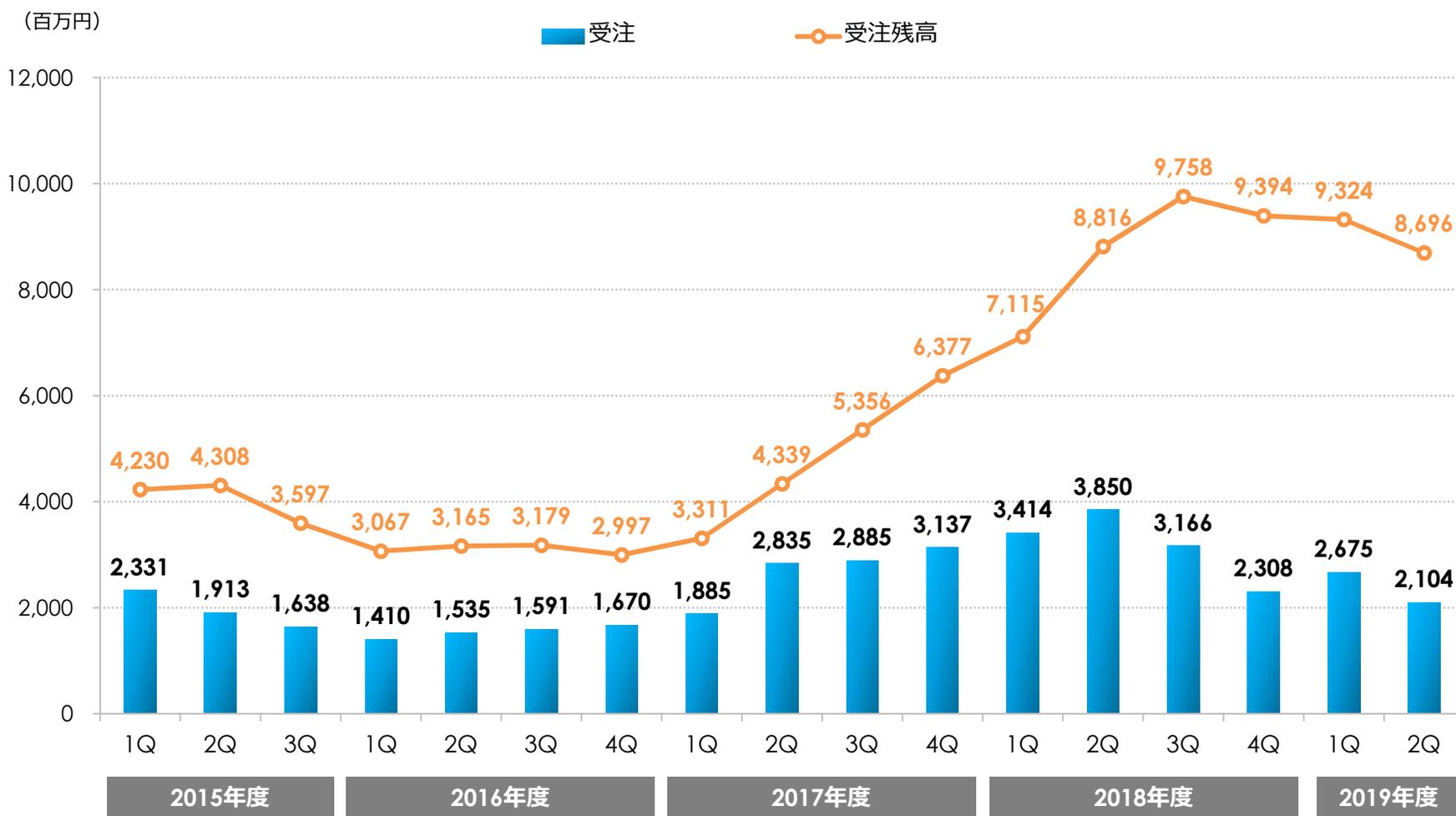
24.0%

31.5%

20.4%

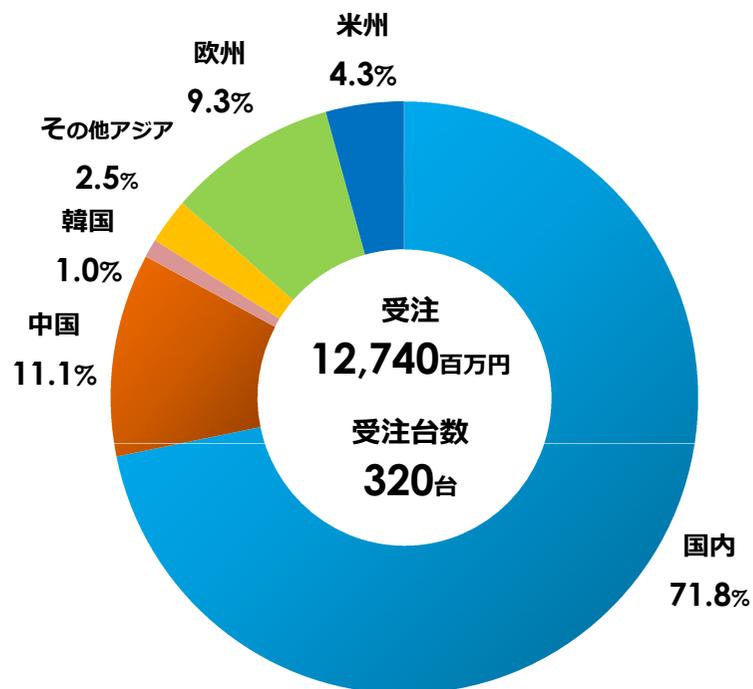
22.6%

※2019年度より株式分割後（2分割）の配当金となっております。
 ※2018年度以前の数値は各期を比較しやすいよう、株式分割後の金額にて記載しています。



※2015年度は決算期変更により2015年4月から12月までの9ヶ月決算となっております。

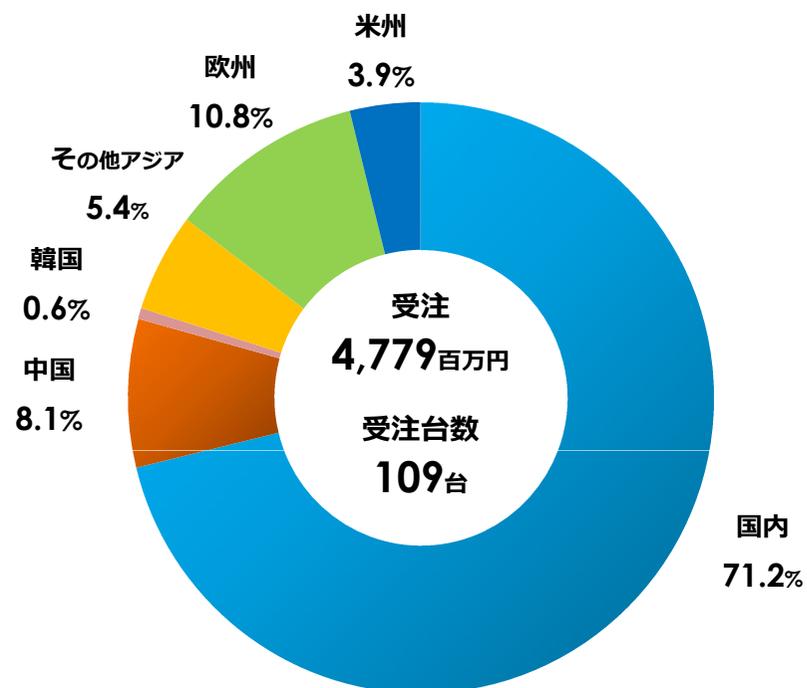
2018年度 通期



海外 **28.2%**

うち海外現地ユーザ 20.4%

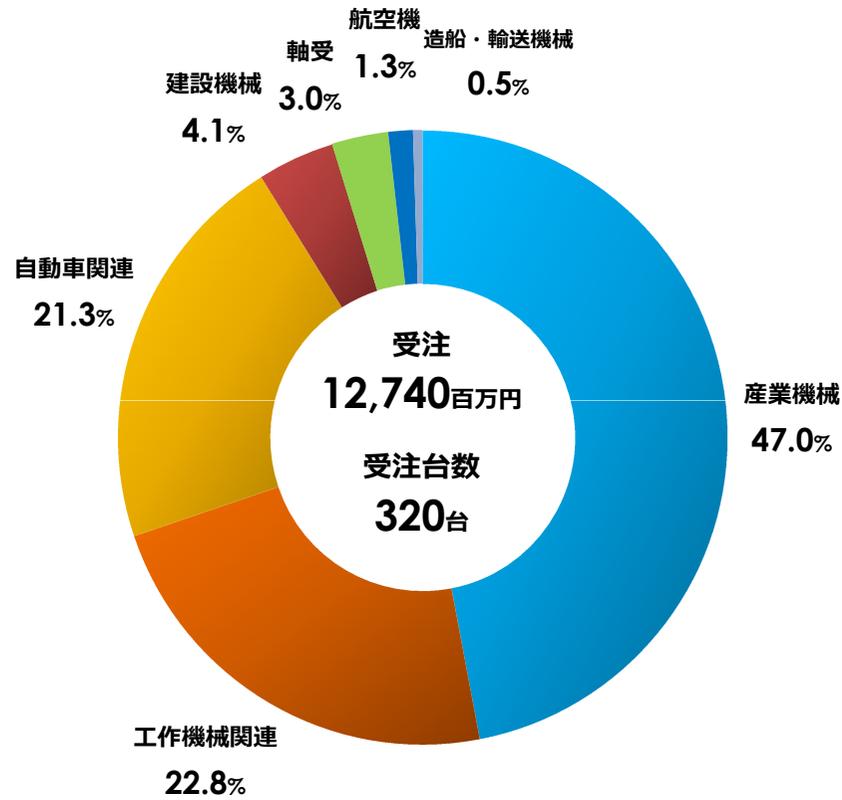
2019年度 2Q(累計)



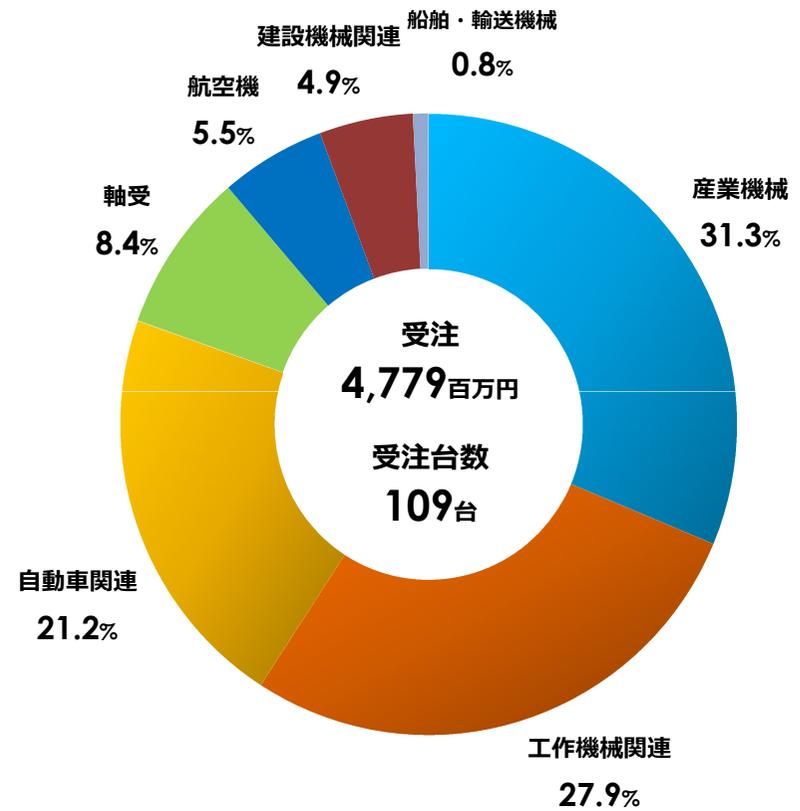
海外 **28.8%**

うち海外現地ユーザ 26.2%

2018年度 通期



2019年度 2Q(累計)



ご清聴ありがとうございました。

TAIYO KOKI

IRに関する
お問い合わせ先

株式会社太陽工機 管理部

TEL: 0258-42-8808 URL: <http://www.taiyokoki.com>



【将来予測について】

当資料には、当社の目標、計画などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断及び仮定に基づいております。今後の経営方針転換、外部要因の変化により、将来的に実際の業績と大きく異なる可能性があります。なお、不確定性及び変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- ▶ 為替相場の変動
- ▶ 当社が営業活動を行っている市場内における法律、規制及び政府政策の変更
- ▶ タイムリーに新商品を開発し、市場に受け入れられるようにする当社の能力
- ▶ 当社が営業活動を行っている市場内における政治的な不安定さ

【お取り扱い上のご注意】

本資料は、当社をご理解いただくために作成したのもので、当社へ対する投資の勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の情報は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであります。